



ANAグループ連結財務諸表

第2四半期累計(2009年4月1日～2009年9月30日)

連結損益計算書 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
営業収入	7,533	6,118
営業費用	7,034	6,400
営業利益又は損失(△)	498	△282
営業外収益	76	52
営業外費用	179	185
経常利益又は損失(△)	395	△415
特別利益	10	21
特別損失	18	20
税引前四半期純利益又は純損失(△)	387	△414
法人税等	167	△158
少数株主損失(△)	△0	△2
四半期純利益又は純損失(△)	220	△253

営業収入

前年度下半期からの世界同時不況により落ち込んだ需要の回復が遅れる中、第1四半期には新型インフルエンザの影響もあり、大変厳しい状況で推移し、営業収入は前年同期より1,415億円減少して6,118億円となりました。

営業費用

収支改善のための「緊急対策プラン」と「緊急収支改善策」を着実に実行し、各種費用の削減を進めた結果、営業費用は前年同期より634億円減少して6,400億円になりました。

営業利益(損失)

前年同期より781億円の減益となり、282億円の営業損失となりました。

キャッシュ・フロー

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、713億円の収入超過となりました。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、主に航空機関連の設備投資等を行った結果、2,240億円の支出超過となり、フリー・キャッシュ・フローは1,526億円の支出超過となりました。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金やリース債務の返済を進める一方、新規借入による資金調達や新株式の発行を行った結果、1,937億円の収入超過となりました。

※金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てています。

※決算に関する資料は当社ホームページでもご覧いただけます。

ANA 検索 → IR情報 → 決算情報 → 決算短信

事業別セグメント情報 単位:億円		前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
航空運送事業	国内線	3,912	3,421
	旅客	3,725	3,244
	貨物・郵便	185	175
	手荷物	1	1
	国際線	2,092	1,257
	旅客	1,656	1,009
	貨物・郵便	432	245
	手荷物	3	2
	その他	664	721
	営業収入計	6,668	5,400
営業費用	6,186	5,688	
営業利益又は損失(△)	482	△287	
旅行事業	営業収入	1,024	875
	営業費用	1,021	881
	営業利益又は損失(△)	2	△6
その他の事業	商事・物販	524	478
	情報通信	117	124
	その他	107	88
	営業収入計	748	691
	営業費用	737	682
	営業利益	11	8
	営業収入計	8,442	6,967
セグメント間消去	908	849	
連結営業収入	7,533	6,118	
営業費用計	7,945	7,252	
セグメント間消去	910	851	
連結営業費用	7,034	6,400	
連結営業利益又は損失(△)	498	△282	

連結キャッシュ・フロー計算書 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	264	713
投資活動によるキャッシュ・フロー	△434	△2,240
財務活動によるキャッシュ・フロー	559	1,937
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,190	1,843

事業別セグメント情報

航空運送事業

営業収入

・国内線旅客

富士山静岡空港から沖縄、札幌線を開設したほか、需要に見合った増減便を実施しました。需要喚起のため「旅割」「スカイメイト割引」の値下げ、シニア層向け「シニア空割」の新設、各地域と連携したキャンペーンの実施等を行い、9月のシルバーウィーク期間には顕著な効果が見られたものの、旅客数は前年同期比90.7%、収入は同87.1%となりました。

・国際線旅客

低需要路線の減便や機材の小型化等を進める一方、関西－金浦線の新設など需要動向への対応を推進し、夏季には羽田－グアムチャーター便を運航するなどプレジャー需要の喚起に努めました。7月から燃油サーチャージが廃止されたこともあり、8月以降、旅客需要は前年同期を上回りましたが、第1四半期の低迷によって旅客数は前年同期比93.6%、収入はビジネス需要低迷等による販売単価の大幅な低下もあり同61.0%となりました。

・貨物・郵便

国内線貨物は「ゆうパック」は堅調に推移しましたが、輸送実績、収入とも前年同期をやや下回りました。国際線貨物は本年2月を底に中国等アジアを中心に回復の動きが見られ、アジア地域での販売促進に努めました。また、海外新聞普及株式会社を連結子会社化し、既存子会社と合併させエクスプレス輸送を強化しましたが、競争激化や燃油サーチャージの値下げにより収入は前年同期を大幅に下回りました。

営業費用

燃料価格下落と消費量削減により燃油費を243億円削減するとともに、「緊急対策プラン」「緊急収支改善策」の実行により、人件費や外部委託費の削減等で生産連動費用を149億円、国際線旅客販売手数料の廃止や広告伝費の抑制等により収入連動費用を194億円削減した結果、営業費用は前年同期より498億円減少しました。

営業損益

前年同期より769億円の減益となり、287億円の営業損失を計上しました。

旅行事業

国内旅行、海外旅行ともに景気悪化と新型インフルエンザの影響による需要低迷により、収入は前年同期比85.5%となり、6億円の営業損失となりました。

その他の事業

空港店舗を中心とした顧客サービス事業の低迷などにより、収入は前年同期比92.3%となり、8億円の営業利益となりました。

輸送実績			前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前年同期比 (%)
国内線	旅客数	(万人)	2,228	2,020	90.7
	座席キロ ^{※1}	(億席キロ)	304	295	97.1
	旅客キロ ^{※2}	(億人キロ)	195	179	91.9
	利用率 ^{※3}	(%)	64.2	60.8	△3.4
	有効貨物トンキロ ^{※5}	(百万トンキロ)	—	979	—
	貨物輸送重量	(千トン)	235	229	97.5
	貨物トンキロ ^{※6}	(百万トンキロ)	229	227	99.2
	郵便輸送重量	(千トン)	19	16	83.8
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	18	16	88.2
	貨物重量利用率 ^{※7}	(%)	—	24.9	—
	旅客数	(万人)	233	218	93.6
	座席キロ ^{※1}	(億席キロ)	142	134	94.7
国際線	旅客キロ ^{※2}	(億人キロ)	103	97	94.0
	利用率 ^{※3}	(%)	72.9	72.4	△0.6
	有効貨物トンキロ ^{※5}	(百万トンキロ)	—	1,332	—
	貨物輸送重量	(千トン)	197	186	94.5
	貨物トンキロ ^{※6}	(百万トンキロ)	915	819	89.6
	郵便輸送重量	(千トン)	8	9	114.0
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	44	51	115.5
	貨物重量利用率 ^{※7}	(%)	—	65.4	—

※1: 座席キロ＝座席数×運航距離(キロメートル)
※2: 旅客キロ＝旅客数×運航距離(キロメートル)
※3: 利用率＝旅客キロ÷座席キロ
※4: 国内線旅客実績には、IBEXエアラインズ、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、スターフライヤーとのコードシェア便の実績を含む。
※5: 有効貨物トンキロ＝有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル) なお、旅客便については、床下貨物室(ペリー)の有効貨物重量に各区間距離を乗じた数値。床下貨物室の有効貨物重量には貨物・郵便のほか、搭乗旅客から預かる手荷物搭載の有効搭載重量も含む。
※6: 貨物トンキロ＝貨物輸送重量(有償)×運航距離(キロメートル)
※7: 貨物重量利用率＝(貨物トンキロ÷郵便トンキロ)÷有効貨物トンキロ
※8: 国内線貨物および郵便の実績には、北海道国際航空、スカイネットアジア航空とのコードシェア便の実績を含む。
※9: 国際線貨物および郵便の実績にはコードシェア便実績および地上輸送実績を含む。
※10: 国際線貨物および郵便実績にはABX Air社委託運航便(2009年3月終了)の実績を含む。
※11: 国内線深夜貨物定期便の実績を含む。
※12: 国内線、国際線ともに不定期チャーター便の実績を除く。

連結対象会社の状況
(2009年9月30日現在、2009年3月期末比較)
・連結子会社 72社(新規1社、除外5社)
・持分法適用会社 24社(新規1社、除外1社)

連結貸借対照表 単位:億円	前期 2009年3月31日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在
資産の部		
流動資産	4,466	5,061
現金及び預金	596	1,026
営業未収入金	891	920
有価証券	844	1,526
商品	59	58
貯蔵品	511	559
繰延税金資産	732	479
その他	829	490
固定資産	13,142	14,289
有形固定資産	10,802	11,699
建物及び構築物	1,040	1,033
航空機	6,331	6,368
土地	458	515
リース資産	546	490
建設仮勘定	2,062	2,946
その他	363	344
無形固定資産	629	643
投資その他の資産	1,710	1,946
投資有価証券	547	543
繰延税金資産	815	1,051
その他	346	351
繰延資産	1	9
資産合計	17,610	19,360

資産の部

増資手取金などにより流動資産が前期末より594億円増加したことに加え、新規航空機導入のための前払金の支払いなどで固定資産が1,147億円増加。総資産は1,749億円増加しました。

負債の部

流動負債が前期末より392億円減少する一方で、新規の借入等により固定負債が664億円増加した結果、負債は271億円増加しました。なお、有利子負債は643億円増加して9,616億円となりました。

純資産の部

四半期純損失の計上や配当金の支払いの結果、利益剰余金が前期末より273億円減少しましたが、増資等により株主資本が1,137億円増加したことに加え、繰延ヘッジ損益が296億円改善したことなどから、純資産は1,477億円増加しました。

連結貸借対照表 単位:億円	前期 2009年3月31日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在
負債の部		
流動負債	5,031	4,638
支払手形及び営業未払金	1,489	1,505
短期借入金	465	291
1年内返済予定の長期借入金	811	949
1年内償還予定の社債	300	100
リース債務	117	120
賞与引当金	123	123
独禁法関連引当金	161	161
その他	1,562	1,386
固定負債	9,321	9,985
社債	1,350	1,350
長期借入金	5,469	6,380
リース債務	457	424
退職給付引当金	1,169	1,193
役員退職慰労引当金	5	4
その他	868	632
負債合計	14,352	14,624
(有利子負債)	8,972	9,616
純資産の部		
株主資本	4,031	5,169
資本金	1,600	2,313
資本剰余金	1,257	1,969
利益剰余金	1,238	965
自己株式	△63	△79
評価・換算差額等	△812	△498
その他有価証券評価差額金	13	34
繰延ヘッジ損益	△825	△528
為替換算調整勘定	△0	△4
少数株主持分	39	65
純資産合計	3,257	4,735
負債純資産合計	17,610	19,360

減価償却費と設備投資 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
減価償却費	553	557
設備投資	690	1,537